



道の駅整備計画に 障がい者雇用を

高松 幸雄議員

思いやりのある取り組みを考えている
産業建設部長



▲農福連携パンフレット(農林水産省提供)

問 農福連携とは、障がい者などが農業分野で活躍することで、自信や生きがいを持ち、社会参画を実現していく取り組みのことだ。深刻な人手不足に悩む農業と、働く場の確保が難しい障がい者

とを結びつける施策であり。しかし、農福連携を推し進めようにも、現状は農業を障がい者の雇用の場として生かす仕組みは十分に整っていない。農福連携は、農業や福祉にお

ける課題を解決しながら、双方の利益につながるウィン・ウィンの取り組みが必要だ。

答 まだ障がい者への無理解、差別が解消していない。

問 課題の解消に向けて、本市の役割は。

答 障がい者に対する差別、無理解を解消してい

くことが必要。積極的に周知をしていきたい。

問 本市における農福連携の現状と課題は。

答 知られていない、踏み出しにくい、広がっていないといった課題があると認識している。農業経営者と障がい者就労施設等との橋渡しをする役割をしていきたい。

問 農福連携について知りたい場合、どの部署に相談すればいいのか。また、調整や紹介は。

答 社会福祉課及び産業振興課で対応をしている。JAあいち中央会が、2019年に相談窓口を設置し、コーディネーターも配置され、調整や紹介を進めている。

問 本市は農業と福祉の連携について、どのような形で関わっていくか。

答 農業振興や障がい者の自立などを図るため、

農福連携の活動をしっかりと支援していきたい。

問 道の駅立田ふれあいの里に計画がある体験農園で、障がい者雇用の考えは。

答 現在、道の駅整備計画作成のなかで、様々な施設内での考え方など、いろいろな方と情報交換して、思いやりのある取り組みができればと考えている。